

第 1 回 橿原市教育施設再配置検討審議会 会議録

| | |
|---------|---|
| 日 時： | 令和 2 年 2 月 25 日（火） 10：00～12：00 |
| 場 所： | 大和信用金庫八木支店 3 階第 1 会議室 |
| 出席者： | <p>委員 藤原会長、重松委員、天根委員、岡田委員、鶴田委員、米田委員、米川委員、仲川委員、柿本委員、槇尾委員、吉田委員、加藤委員、山中委員、仲嶋委員</p> <p>事務局 事務局：市長、藤井事務局長、栗原副局長、北野副局長、辻岡副局長、辻本課長、戸田課長、吉川主幹、上田勝己課長補佐、上田のぶ子課長補佐、長谷川課長補佐、井岡指導主事、東浦主査</p> <p>長大：諏訪、依田</p> |
| 欠席者 | 委員 竹中委員 |
| 資料： | <p>資料 01. 橿原市執行機関の附属機関に関する条例</p> <p>資料 02. 橿原市教育施設再配置検討審議会規則</p> <p>資料 03. 橿原市審議会等の設置及び運営並びに会議の公開に関する要綱</p> <p>資料 04. 委員名簿</p> <p>資料 05. 橿原市教育施設再配置基本方針【概要版】</p> <p>資料 06. これまでの検討経緯 / 検討対象施設と再編実施時期 / 検討項目について</p> <p>資料 07. 今後の検討スケジュールについて</p> <p>資料 08. 再編の進め方</p> <p>補足資料 01. 就学前の保育・教育のあり方と適正配置についての基本方針【概要版】</p> <p>補足資料 02. 橿原市学校教育の指導方針【H31 年度】</p> <p>補足資料 03. 学校区別の園児児童生徒数推計の方法</p> <p>補足資料 04. 検討データ集</p> |
| 1. 開会 | 開会挨拶 |
| 2. 会長選出 | <p>市長挨拶、委員紹介、会長や代理の選出</p> <p>会長は藤原委員、職務代理者は重松委員に決定。</p> |
| 3. 諮問 | 本審議会への諮問 |
| 4. 議事 | 議事 |
| 会長 | 各委員におかれましては議事進行について協力方よろしくお願い申し上げます。 |
| 事務局 | <p>資料説明</p> <p>【資料 01 橿原市執行機関の附属機関に関する条例】</p> <p>【資料 02 橿原市教育施設再配置検討審議会規則】</p> <p>【資料 03 橿原市審議会等の設置及び運営並びに会議の公開に関する要綱】</p> <p>【資料 04 委員名簿】</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>会長</p> | <p>会議は公開でよろしいでしょうか。 ————— 各委員了承 —————</p> <p>議事録は要点議事録として公開してよろしいでしょうか。 ————— 各委員了承 —————</p> <p>議事録の署名人は各委員からの輪番で1名と、会長の2名で行うことでよろしい でしょうか。 ————— 各委員了承 —————</p> |
| <p>会長</p> | <p>最初に、櫃原市教育施設の現状等についてつかんでいただくために、事務局から資料に基づいてご説明をいただきたいと思います。</p> <p>議事 1) 櫃原市教育施設再配置基本方針</p> |
| <p>事務局</p> | <p>資料説明</p> <p>【資料 05 櫃原市教育施設再配置基本方針【概要版】】</p> |
| <p>会長</p> | <p>前回の委員会で議論してまとめた内容が今の説明の通りで、各学校の状況などを勘案して、統合等の計画の原案がつけられたということです。基本の考え方のあるところに関しまして、ご質問なりご意見がありましたらお願いします。</p> |
| <p>委員</p> | <p>小学校は16校、中学校は6校ですが統廃合によって何校を目指しますか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>基本方針には小学校を9校、中学校を4校に再編していくと示しています。</p> |
| <p>委員</p> | <p>子どもの数が減っているから統廃合は当然考えられることだと思っています。統廃合というのは、子どものためにしますから、子どもの人数が少なかったらダメなのか、多くしたらいいのか、議論はありますか。少ない子どもにしっかりした教育ができることも大事ではないか。小学校16校が9校になると7校減るわけで、そこまで減らしていいのか。各自治会もあるし、ここで簡単に決められるものではない。各小学校もそれなりの歴史があるので。</p> <p>鴨公に住んでいるが、千何年の歴史があり、こういうところを簡単に統合して、名前をなくすというのはどうかと。鴨公の高殿、醍醐、縄手、別所という地名は奈良と京都にも残っております。子どもの数が少ないから統合しようというのは、今の時代に合うたような形になるかと思っているが、地元の人にとっては残して欲しいという要望が来ています。容易に16を9にする、6を4にするということにつ</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>いて、少し考えて議論を進めていただきたいと思います。</p> |
| 会長 | <p>前提の条件をもう一回ちゃんと確認しようという意見だと受け取っておりますので、経緯と、今何が決まって、どういう状況にあるか、背景を少し事務局のほうで説明をお願いします。</p> |
| 委員 | <p>統廃合がダメとは言っておらず、進めるにあたって進めやすい方向性、今のままでは簡単に進まないという思いで言っているだけです。自治会、地元の意見をしっかり聞いて進めていくのが一番大事な問題であると思います。</p> |
| 委員 | <p>地元同士の話し合いはできないと思います。自分が卒業した学校がなくなることに対して、統廃合を進めたいと地元が手を挙げて言えることがない。僕の思いは、学校の歴史、卒業生が何人、様々なデータを持って行って、計画は立てなければいけないが、最終決めるのは条例で決める方法をとっていかないと決まらないと思います。地元は血の出るようなけんかをしなければならないし、みんな自分の出た学校は大事だから、1人であっても残したい。推薦をもらって、代表になって、うちの学校をなくしますとは絶対できない。統廃合を策定してもらって、条件は多いほうをとるのか、歴史のあるほうをとるのか、決めてもらって、条例化してもらわないと決まらないのではないかと思います。</p> |
| 会長 | <p>結局、この計画そのものがどういう背景で出てきたのか説明をして、それに基づいてどういう議論をするかはっきりさせることが必要だと思います。今回は第1期の計画ということで、身近に迫っている問題の解決を行おうという趣旨を含めて、計画全体が審議会の中で何を諮っているのかという説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>これまでの経過と適正規模をどういうふうにしたかという話をさせていただきます。平成29年、30年で7回開催した基本方針策定の審議会で検討していただいた結果、12から18学級のクラス替えができる学校規模とすることが必要ということになりました。その理由としては、多様な考え方に触れる機会が増える、子ども同士の人間関係の再構築にもつながる、教職員にとってもバランスのとれた配置ができて、多様な指導形態をとることができるということからです。</p> <p>前期の再編については、白檀の再編、それから、鴨公、香久山、晩成の地域の再編を進めていくことを地元の方に一定の理解をいただきたいと思いますので、まずは十分説明させていただいて、何度か協議の場も設けて進めていきたいと考えています。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>教育委員会としては、子どもたちの目線で、将来樺原市を担う子どもたちが健全な大人に育っていただけるような環境づくりをしていかないといけないと思っています。AIの発展などの社会情勢の変化も踏まえますと、子どもたちが切磋琢磨できる環境づくりとか、様々な学習形態に沿うような環境整備をしていかないといけない。そのためには、ある一定の考え方が必要であろうということです。一様に施設を減らしていくということではなく、子どもたちの目線で考えていきたいと思っています。</p> |
| 会長 | <p>基本方針をつくる段階での座長も私やらせていただきましたので、今回の議論すべき対象を説明したいと思います。</p> |
| 委員 | <p>聞きなれない問題も個々人にはあると思いますが、日本国の問題であり、人口の問題であり、様々なことの経済的な問題なので、個々にはする必要はないと思います。各立場で皆物を言いますから、それはそれで前に進めてもらっていい。</p> |
| 会長 | <p>「これからの子どもたちの教育環境について考える」は、シンポジウムで私のほうから前回の計画を進めていた基本的な考え方を話させていただいた内容です。熟読していただければ、今大きな計画はつくってきているということをご理解いただけるかと思います。</p> <p>今の議論の内容については、これからの議論をスタートさせていく前提として考えるということについて何かご異論がございますか。</p> |
| 委員 | <p>教育に視点を合わすという立場ですが、資料を読みますと数と財政が前へ出ているような感じがします。本末転倒にしないようにしようとするれば、指導要領も10年ごとに変わりますのは、社会情勢が変化して、教育のありようをどうするかということの議論から変わっていくわけで、10年たったら社会が変わるという想定で考えていく必要があると思います。</p> <p>例えば今年、指導要領の改訂が行われます。今まで日本の教育というのは、40人とかの一斉授業で、ヨーロッパ教育から見たらすばらしいと。40人余りの人を1人で教えているという発想があるわけですが、人数が多く、学校が少なく、やむを得なかったと。少子化されてくると、子どもたちの持っているものを引っ張り出してやろうというヨーロッパスタイルの教育ができるようになってきた。1970年代から生きる力という言葉が出てきて、そういう時代になってきた。</p> <p>この統廃合は、まず教育内容が変わり、指導方法も、評価も変わります。箱物でこの教育を効果よくするためにはどういうふうな施設、設備が必要か、それを算出しまして、現在の学校ではこれをやろうと思ったらどのぐらい費用がかかるという、財政上の問題がそこに初めて出てきます。そういう状況で、重点的にやっていかな</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>ければならないが、方法論は5年間で終わられても、箱物は先々のことを考えて計画していかなければいけない。統廃合によって重点校を決める必要があるという論法の流れがいいのではないかと考えていて、とにかく減ってきたから、40人学級にするというのは崩れていくと私は思っています。</p> <p>時代とともに、変わらなければならないところは変えつつ、基本的なところは変えないで、この会も議論して、児童生徒の目線に立って、今の教育を重点的に展開するにはどうすればいいか、そのために統廃合はどこでどうあるべきかという論法で、時代が変わってきておりますので、変えるべきところは変えつつ見直していくと。</p> |
| <p>会長</p> | <p>生徒の数だけでなく、教育対応が大切であるということ自体は、お話しした内容で、施設の老朽化の話も組み込みながら検討してきたということもごさいます。当面のところ具体的に、ある意味では早急に方向を決めなければいけない内容、小規模化するということだと思いますが、そういうところを選んで、検討を具体的にやるというのが今回の委員会の大前提になっていますので、議論を全部踏まえながら、実施計画に近い具体的な内容の議論をこの委員会では進めていきたいと思っています。この考え方で進めていくということに何かご異論があれば、議論を少ししておきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、基本方針の部分は、具体的に議論を進めてきた内容でもございまして、ご理解をいただきたいと思っておりますので、次の議事に移りたいと思っております。</p> |
| | <p>議事2) 実施計画検討について</p> |
| <p>事務局</p> | <p>資料説明</p> <p>【資料06 これまでの検討経緯 / 検討対象施設と再編実施時期 / 検討項目について】</p> |
| <p>会長</p> | <p>これまでの審議会の大きな枠組みづくりの中で、対象にすべき地区を絞り込んだ内容です。具体的にこれから議論をしていこうということが今の説明の大筋でもあります。やる内容のチェックするポイントなども今話が出てまいりましたので、皆さんに様々な意見をいただきながら、その部分について議論をしていくということをごさいます。何か不明な点などがありましたらご意見をいただきたいと思っております。よろしければ、事務局のほうから引き続いての説明をお願いします。</p> |

| 議事 3) 今後の検討スケジュールについて | |
|------------------------------|--|
| 事務局 | 資料説明 【資料 07 今後の検討スケジュールについて】 |
| 会長 | <p>大きな基本計画は既に決定を受けて進んでいるわけですので、当面実施を考えている内容について特に議論をしよう。それに関する問題はどのようなものがあるのか、どう解決できるのかといった関連する事項について、具体的に議論をしていこうというのが課題ということになっています。</p> <p>この会議の議題とか進め方について、スタートを切るわけですから重要なことでもありますので、何か意見がありましたらお願いします。</p> |
| 委員 | <p>白樫北小学校が7つの空き室があるとありましたが、空き室があるということは大きなことでしょうか。建物を全部残して統合するということを考えて、南か北かといったら、部屋数がたくさん余る北のほうがやりやすいというふうにとればいいんですか。建物を残すのか、すっかりつぶして斬新なものをつくるのかで大分違うなと思いました。斬新なものを私はつくってほしいと思いましたが、部屋数の余りというものを考慮に入れるのだったら、自分の考えとは違うものができるのかと。建物をもう少し強化してそのまま残すというふうな考えなのかと思ったので、質問させていただきました。</p> |
| 事務局 | <p>基本方針では、既存の施設を利用しての統合を基本としており、その際には長寿命化改修といいまして、ほぼ見た目も中身につきましても新しい状態にリニューアルするような工事を考えており、統合校として開校していきたいという考えです。</p> |
| 会長 | <p>1つの基準で、市の方針も、地域の状況も入れながら、大きな計画は一旦できたと。5年間の対象になる学校は当面早急に対応しなければいけない事業だということで、取り組みを始めよう。具体的な取り組みを始めるために、何をどうしたらいいか、どう考えたらいいのかというところをきっちり議論して、具体的な計画の一步を踏み出していきたいと。確認できればスタートが切れたと思いますから、そういうような背景と内容によって進めていくことを前提にして進めていこうとしています。これについてご意見があればお願いします。</p> |
| 委員 | <p>情勢が変わってきています。例えば、アクティブラーニングやITの授業など、実際やられたらわかると思いますが、IT教育なんかをやろうと思えば、15人を超えますと、うちの学校でも助手を入れます。アクティブラーニングも、先生の今の立場として、授業の方法が変わります。41になったら、20人と21人に分かれるということですが、効果的にやれる授業方法はせいぜい最大20人だと思います。</p> |

| | |
|------------|--|
| <p>会長</p> | <p>40 になってアクティブラーニングをやりたいというのは至難のわざだと。 教育内容も、本年度から小学校は変わってきますので、そういうふうなところを理論づけしながら、現在の決められた方向を進めていくということをやる必要があるのではないかと考えています。</p> <p>前提条件として、数字で 40 と言ってしまうと、課題もまた出てくるということですが、今までの 40 人と決めたのは、何とかクラスが維持できる規模と判断して、新しい時代のところには 40 人ではアクティブラーニングの授業がしにくいという実態を入れながら議論はしてきておりません。そういう意味では、疑義が出されたということですが、こういう考え方もあるというようなことを前提にしながら、次の具体的な議論に入っていけるようにできればと考えています。実質 40 人としても、30 人くらいになっているというのが実態でもございますので、そういう意味では少しくらいになるのかという感じはしますが、間合いを見ながら、授業の工夫の仕方とか、その点の数字についても一度議論が必要だということになれば、きちんと議論をしていくことを前提にしながら、次の具体的な取り組みが進む中でご議論をお願いしたいと考えています。もちろん、否定することではなくて、念頭に置きながらご発言なりいただければありがたいと思います。</p> |
| <p>委員</p> | <p>1つの事例をとると、香久山小学校は小規模校であると、晩成小学校が 2026 年から 2030 年で小規模になると。鴨公が 2036 年から 2040 年に小規模になるということで、基本方針に同じ表が出ています。対して、資料では鴨公小学校は 2020 年で小規模校、晩成小学校は一旦小規模校になりますが、小規模ではなくなって、2028 年時点でも小規模ではないですが、この 2 つの表の読みはどのように読めばいいでしょうか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>鴨公小学校については、2020 年度には恐らく小規模化が進んでいくと予測されます。晩成小学校についても、このまま 11 学級、12 学級という状態が続いていくのかと。基本方針のときの推計は、国立社会保障・人口問題研究所の推計値に基づいて出させていただきました。新たにスライド推計ということで、ゼロ歳児は翌年には 1 歳児になる、5 歳児は翌年には 6 歳児になるという考え方に基づいて、児童の数を送っていくという推計の仕方で表を出させてもらっています。したがって、社人研の人口推計値とは若干変わってくると思います。</p> |
| <p>委員</p> | <p>どちらに基づいてこれから議論していきますか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>スライド推計値を使っていきたいと考えています。社人研のほうは、5 歳刻みの 5 年単位でしか推計値が出ていません。スライド推計値に関しては、1 学年、しかも 1 年ずつの推計が出せます。現在の 0 歳児の人口、これは住民基本台帳に基づく</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>人口ですが、実績は既にありますので、0歳児が小学1年生、大体6歳になるまでの推計に関しましては、スライド推計値を用いて出したほうが明らかに精度の高いものになると考えます</p> |
| 委員 | <p>八木中学校校区で3つの小学校を1つにする必要がありますか。鴨公と香久山だけをくっつけて、晩成はしばらく12クラスが維持されるのですから、何も3つくっけなくてもいいような気がします。どう考えたらいいでしょうか。</p> |
| 事務局 | <p>鴨公小学校、香久山小学校を統合した場合に、統合直後に小規模化が始まるという形になります。鴨公小学校の場所が藤原京の史跡の範囲に入っているということもありまして、鴨公小学校への統合は今のところ難しいかと考えています。そうになると、鴨公と香久山の統合を考えると香久山小学校のほうへ統合ということになりますが、香久山小学校は元々小規模な学校で、校舎自体が大きくないので、香久山小学校への統合は、既存施設を利用しての統合には向いていないと考えます。この地域を考えるにあたっては、晩成小学校も含めた3校の統合を考える必要があると考えています。</p> |
| 委員 | <p>統廃合については行っていかなければいけないと考えていますが、白樫、今井で見られるように、自分の目の前に学校があるのに通り過ぎて、子どもが国道を渡って歩いていく、大事なところの見直しが置き去りにされていると。まずそういったところの校区を変えていく必要あるのではないですか。こういう意見を言っているのか少し気になりますが、考えていかないといけない内容の1つじゃないかと思えます。</p> |
| 会長 | <p>即時的な実施の段階での課題は、今のようなことが出てくるような気がします。事務局のほうで、ここまで考えられてきた内容のことをご説明願います。</p> |
| 事務局 | <p>現状の学校区でいきますと、白樫の近くでは、畝傍南小学校区になりますが、電車通学があります。今井小学校を乗り越して真菅小学校に通っておられるということも確かにございます。特に今回議論の対象となっている2025年度までのところでは、白樫のところは課題となってきます。ただ、隣の畝傍南小学校で、例えば電車通学をしていただいているような町を白樫へという話になってしまいますと、今畝傍南小学校は大半その校区の方が通っていただいているというようなところもありまして、そちらのほうの小規模校になってくるといった課題も一方で出てきます。基本方針を出していただく議論の中でも、校区のまたがりとか、電車通学をしているところ、校区の中の考え方としては、そこを乗り越して今ある学校へ通っていただいているところということで、課題として挙げていただきましたが、今回基本方針を出していく中では、まずは現状の小学校区で考えていこうという結論</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>だったかと思います。</p> <p>今回白櫃を考えていく中でも、地元からもそのような声を聞いたりしているんですが、そうなると、畝傍南小学校をどうするのかという話に議論が広がっていき、おさまっていきませんので、今回は小学校区を基本単位として考えていきたいというのが事務局の考え方です。確かに、我々もそこは課題なしだとは考えておりません。検討していかなければならない課題だとは認識しております、今回の25年度の実施計画の中でも、そういった課題もあるということはおっしゃっていただいて結構です。もちろん、議論の中で、そういった課題も残っておりますということが出てくれば、変えていきたいと思います。ただ、再編の考え方としては、今回は小学校区を1つの単位として考えていきたいので、ご理解いただければと思います。</p> |
| 委員 | <p>一番楽な方法やね。極端に言うと、区域をなくしてしまう。</p> |
| 委員 | <p>基本方針ではそれを残しながらやっつけていこうとしているわけなので、極端に区域をなくしたら、基本方針がバラバラになる。</p> |
| 会長 | <p>課題を認識しながらも、スタートのところは、基本的には小学校区でやるということで、1つ前提を立てて進んでいるということでございます。その過程で、地域の動きがいろいろ出た段階で考えていかなければいけないという課題ではあります。計画の前提を1つ固定しておかないと、次に進むこともなかなか難しいと思います。問題を解決していこうとしたときには、類似したものが次から次へ枝葉に出てくるというのは認識していたことでもございますから、当面5年間の計画の中では、問題があるという指摘をしっかりとしながら、今回は小学校区単位で実際の計画を進めていくということでご認識をいただいて、議論をしていただければと思います。</p> |
| 委員 | <p>審議の内容になると思うんですが、鴨公小学校以下のあれは、ちょうど前期と中期のボーダーライン上に載っていますので、このころかという気がするんですが、白櫃中学校区の場合のあれは、前期の真ん中あたりにブルーのスタートラインがかいてあるわけで、その審議自身は、検討して、よりよい結論を出すという審議の議題になるのか、その可能性があるということを前提にしておられるのか。最終的にはそれによって子どもたちが不安に思わないということが非常に大事です。来年度から再編しますとってすぐにできるわけではなくて、大概その二、三年前から子どもたちの統合的な授業、あるいは活動を計画する。例えば、一緒に遠足に行く等々して、お互いにコミュニケーションをとっていくという活動的な一つの施策をするわけですが、いつごろやるのかというのは、審議会の決定事項でいいわけですか。事務局にお任せすればいいわけですか。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>この表には、白檀南北小学校は真ん中からスタートとなっておりますが、この矢印の間で統廃合を考えるとという意味です。白檀の地区に関しましては、役員の方々には基本方針の説明は既にしてしております。来年度に入りまして、保護者の方々、あるいは住民の方々に具体的な統合の内容、統合のパターン等の話をさせていただこうかというところです。統合がいつになるのかですが、検討の進み具合にもより、来年度地元のほうへ入って、スムーズにいけば4年度には工事の実施設計に入り、工事がどれぐらいかかるかもあるんですが、3年程度を見るということになりますと、早ければ令和7年ごろに開校というところです。</p> <p>今すぐ統合して開校するということではございません。当然それまでに南北小学校の児童の交流も考えていきたいと思っております。</p> |
| 委員 | <p>地区の皆さまのご意見は非常に大事ですので、慎重にご検討いただきたいわけですが、来年度以降新たにGIGAスクール等々、施設整備を伴うような大きなうねりもありますので、子どもたちにとって不利益にならないようにご検討いただけたらと思います。</p> |
| 委員 | <p>檀原市にとって初めての統合が具体的な校名を示して進んでいくということで、この場でどういう方法がいいのかということも含めて議論をしようということだと思うが、教育議論の中では、教科別の議論もありますし、全体としての議論もあるという流れの中で、基本方針に基づいてここに引き継がれたという状況です。</p> <p>統合される側も、するほうも、子供たちには喜ばれる教育環境にならなければならないというのが一番大事なことでございまして、それがPTAの方々、保護者の方々のご理解につながっていくということですので、行ってこなかったことに積極的に将来を目指して取り組んでいく。教育内容でありますし、施設整備の問題もそうですし、校区の選択制も含めて、難しいとは思いますが、チャレンジをしていって、両校の子どもたちにとっていい学校に仕上げていくということをぜひお願いをしたいと考えています。</p> |
| 会長 | <p>つけ加えるなら、移転された後の学校は、明らかにコミュニティー施設でもありますので、地域のために考えられることがあるならば、利用するという考え方も入れながら、統廃合を進めることが大切というのが前回の審議会の中でも出た意見ですから、あわせて検討しながら具体的な実施に結びつける計画を進めていくということにしていければと思います。そういう考え方で、趣旨は受け取ればよろしいですね。</p> |
| 委員 | <p>白檀地区には檀原市 PTA のほうに基本計画については説明していただいているということですが、ご意見とか問題点とか、出ているのかなというところで、皆さんにもお聞きいただきたいという部分があります。</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>八木中ブロックの3校についての説明時期はいつごろを検討されているかお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>どういう反応だったかというところですが、通学距離について心配されている方もおられました。小規模校の何が悪いのか、小規模でも先生が一人一人に目が行き届くという意味でいいのではないかという意見はいただいております。来年度基本方針から一步進んだ統合パターンの案など、この後説明させていただきますが、考えを地元の保護者の方々に話していくと。活発に様々な意見が出てくるかと思しますので、また報告させていただこうと思っています。</p> <p>鴨公、香久山、晩成小学校のほうですが、地域の代表や役員の方々への話はできていない状態ですので、2月末、3月の頭にかけて、まずは地区会長の方に基本方針の説明から入っていきたくと考えております。白樫と同じように統合パターンの話までできるというのは少し先の話になるのかと考えております。</p> |
| 会長 | <p>全体のスケジュールの話も少し説明をいただきました。</p> |
| 事務局 | <p>統合パターンの説明をさせていただいてから質疑ということでもよろしいでしょうか。</p> |
| | <p>議事 4) 再編の進め方について</p> |
| 事務局 | <p>資料説明 【資料 08 再編の進め方】</p> |
| 会長 | <p>これからの計画の前提になるところの内容でもございますので、今の説明で、ご質問、ご意見をお願いいたします。</p> |
| 委員 | <p>小中一貫校は考えになっていないのかということです。子どもたちによりよい環境とか、チャレンジしましょうというご意見も考えて、中学校が近くでしたら、中学校はプログラミングにも長けている先生がおられるし、英語教育が今小学校の先生は英語が突然入ってきて、勉強されていて大変だと思うので、助けていただける部分が多くなるのではないかと。考えの1つに入れていただきたいと思います。</p> |
| 会長 | <p>事務局から、過去の経緯も含めて。</p> |
| 事務局 | <p>現在樫原市では各中学校ブロックでの小中連携教育を行っております。小中連携の内容に関しては、各中学校区にゆだねられたものになっております。今回、再編</p> |

| | |
|--------------|---|
| | <p>にかかわって小中一貫教育を導入する場合、樫原市全体を見たときに、再編校だけなのか、または市内全ての中学校で導入するのかという部分が課題となってきます。再編校だけの場合は、地域に限っての小中一貫教育となってしまいますので、公教育と考えた場合、全市的に教育の質に差が出るのではないかというのが1点の課題となっています。小中一貫教育の導入に関しては、最近全国的にも義務教育学校等話題にはなっていますが、どちらかというと施設が一体型のほうが施設分離型や併設型よりも教育効果が高いのではないかという研究もされていまして、逆に施設分離型や併設型の場合は期待されるような効果が上がっていないというのもあります。現状としては、小中一貫教育ではなくて小中連携教育を強化していきたいと考えております。</p> |
| <p>会長</p> | <p>次回の審議会で、より具体的に白樫の南北小学校の再編について議論をするということで、今回は再編に伴う検討課題を示していただいた。小中一貫に関しては今のよう形で事務局では考えていると。こういうことも前提にしながら、次回の議論で必要なら進めていくということで、白樫南北小学校の再編に伴う議論が中心になって、少し具体的な議論に入りたいと思います。出ました課題なども、再度議論しながら、よりよい方向を見つけられるように努力したいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いします。</p> |
| <p>5. 閉会</p> | <p>閉会挨拶</p> |
| <p>事務局</p> | <p>次回の審議会は令和2年4月30日(木)、10時から開催したいと思いますので、ご出席くださいますようよろしくお願いします。正式な開催場所等については後日お知らせします。以上をもちまして、第1回樫原市教育施設再配置検討審議会を終了させていただきます。</p> <p style="text-align: right;">《終了》</p> |